

二十六夜山 ・山行報告書

日本勤労者山岳連盟／めぐろ山学クラブ・仲間

提出日： 2012/1/30

作成者： Y.N

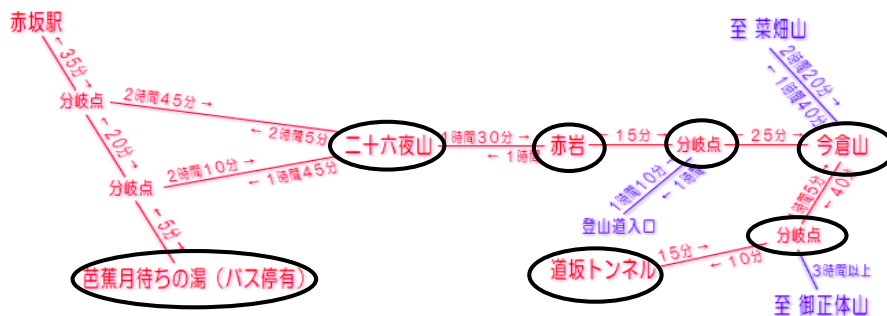
1. 山域	高尾・陣馬
2. ルート	今倉山 ～ 赤岩 ～ 二十六夜山
3. 期間	2012年1月29日(日)
4. 形態	日帰りハイキング
5. メンバ	12名＋一般者1名＝合計13名

6. コースタイム(日時、天気、到達点、幕営・宿泊地: 箇条書き)

富士急行 大月発 9:04 都留市着 9:19
 9:30 タクシー乗車 10:00 登山道着 10:10 身支度を整え出発
 10:35 分岐
 11:35 今倉山 東峰 小休止 11:25 出発
 12:15 今倉山 西峰 小休止 12:25 出発
 13:00 分岐 13:25 赤岩
 14:45 林道 15:20 二十六夜山 17:10 月待ちの湯 17:54 赤坂駅 18:35 大月

7. 報告・コース状況

(概念図、アクセス、取付点、下降点、困難な箇所、岩・沢・雪の状態、道標、踏み跡、残置支点、テント適地等)



今回は初めてのリーダーということで、事前準備がなかなか難しかった。まず、運営委員会で企画書を提出し、大まかな予定をたて、例会で報告したところ集合時間が早すぎ、再設定することになった。参加メンバーには集合時間が確定せず、迷惑をかけたと思う。サブリーダーと調整をし、計画を固めたところで、例会で報告したほうが良かった。その他の反省点としては、役割(会計、記録など)を事前をお願いしておくこと、エスケープルートを確認しておくことなど、次回につなげるための反省点がいくつかあったので、今後活かしたい。

前日28日(土)に都留市のHPを見ると積雪のため、アイゼンが必要との記載があった。陽だまりハイクのもつりだったので、地面にうっすらと雪が残り、凍っているものと想像していたが、実際に現地に着くと、登山道には30センチ以上の雪が積もっていた。参加メンバーは、三年ぶりに復帰する相原さんや、久しぶりの尾崎さん、例会见学者の及川さんなどのメンバーも加わってとても賑やかな山行になった。雪は凍っておらず、トレースした跡が少し残っていたので、その跡をトップの濱崎さんから続き歩き始める。とにかく雪で思った以上に、歩きが進まなかった。登るにつれ、雪の深さは40～50センチになり、雪訓のような山行であった。しかし、雪は多いものの、風が強くなく、時々日差しもでて、天気には恵まれた。最初の分岐から今倉山への登りでは、雪化粧の富士山がはっきりと見え、穏やかなアップダウンが続いた。今倉山東、西峰と続き、少し下る。下りでメンバーが3グループに分かれたので、分岐でしばし全員がそろおうのを待った。今倉山と赤岩の間の分岐で、既に時間が1時間オーバーしているの、ここから下山し、林道へ出て駅に戻ることも考えたが、メンバーの体力を確認したところ、問題ないとのことだったので、予定通りのコースを進むこととする。(後から考えると、エスケープするならこの分岐しかなかった)

歩きやすい登りが続き、赤岩に到着。360度見渡すことができ、今回の山行で一番長めのいいスポットだった。富士山をはじめ、杓子山、八ヶ岳や南アルプスが見え、遠くには北岳も望むことができる。視界版があり、山の名前と位置を確認することができた。ゆっくり眺めていたいが、時間がないため、下山する。所々トラロープが張ってあり、それをつたいながら雪道をザクザクと下り、二十六夜山の登りに入る前に一旦林道にでた。このまま二十六夜山に進むかどうか参加メンバーで迷ったが、引き返すことも、林道を歩いていくことも難しく、山頂をめざし進むこととなる。二十六夜山にはトレースの跡がなく、トップを交代しながら歩いた。頂上は赤岩より標高が低く、落ち着いた感じだった。日暮れも迫っており、とにかく下山を急いだ。下りではどうしてもスピードによってグループが3つに分かれてしまった。林道に出るところで一か所迷うところがあり、グループが前後したが、無事に17時過ぎには月待ちの湯で合流することができた。16:30

8. その他 (山に関係ない事でも、エピソードでも何でも可)

参考〈タクシー料金〉

富士急行 都留市～道坂 登山道入り口 4,040円

月待ちの湯～富士急行 赤坂駅 2,560円